

一般廃棄物中間処理施設の広域整備について

建設候補地の選定について

—— 建設候補地の抽出～評価・選定 ——

1) 立地規制に係る地域の排除

排除条件

- ・都市計画用途地域(工業専用地域、工業地域、準工業地域を除く)・地区計画区域・臨港地区区域・風致地区区域
- ・保安林・地域森林計画対象民有林・自然公園地域(東山溪県立自然公園)・景観計画(重要な景観形成地域)
- ・農用地区域・河川(保全)区域　・都市公園、公園、緑地

2) 施設立地が望ましくない地域の排除

排除条件

- ・砂防三法(地すべり・急傾斜・砂防)・土砂災害防止法(土砂災害警戒区域等)・河川浸水想定域、津波浸水深(3m以上のみ)・埋蔵文化財・重要な自然環境(湿地、干潟:自然環境保全基礎調査)

3) 施設立地が可能な地域を抽出

抽出条件

- ・住居等の建物の立地状況(空き地があるか)　・公園、緑地の立地状況(空き地があるか)

4) 徳島市域から6箇所の候補地を抽出

5) 評価項目・基準等の決定

評価項目

- 安全・安心の確保の視点
 - ①活断層との位置関係
 - ②津波洪水・河川洪水の影響
 - ③その他の危険地域
 - ④周辺人口との関係
 - ⑤教育施設との位置関係
 - ⑥医療・福祉施設との位置関係
 - ⑦文化施設・観光施設との位置関係
 - ⑧水道水源との位置関係
- 環境への配慮の視点
 - ⑨道路混雑度
 - ⑩人口重心からの距離
 - ⑪他市町からの(合計)距離
 - ⑫主要道路との接道状況
 - ⑬雨水の放流先の状況
 - ⑭環境配慮の視点からみた候補地の現状
- 計画的な財政運営の視点
 - ⑮造成工事
 - ⑯用水の確保
 - ⑰地価
 - ⑱地区の人口密度
 - ⑲土地所有者数
 - ⑳徳島東部最終処分場との位置関係
 - ㉑東部環境事業所との位置関係
 - ㉒西部環境事業所との位置関係

6) 候補地の評価、順位づけ

7) 徳島市域から1箇所の候補地を選定

8) 徳島市と小松島市の両市からそれぞれ1箇所の候補地を提案

徳島市、小松島市共に(5)の項目について同様の評価を行っています。

9) 最有力候補地を選定

徳島市飯谷町枇杷ノ久保の民間採石場跡地

市民会議における現候補地の土砂災害対応に関する議論について

1 第2回市民会議（平成30年8月22日）

委員意見（概要）

- ・ 土砂災害についてきっちり説明してもらいたい。
- ・ 建設候補地への進入路も確認しておかないと、施設は大丈夫でも道路が通れなければ残念なことになる。
- ・ 関係するところと連携しながら進めてもらいたい。

会長意見

- ・ 検討にあたっては、お考えをいただきたい。

2 第3回市民会議（平成30年9月25日）

(1) 事務局提出資料・・・別紙

(2) 事務局説明（概要）

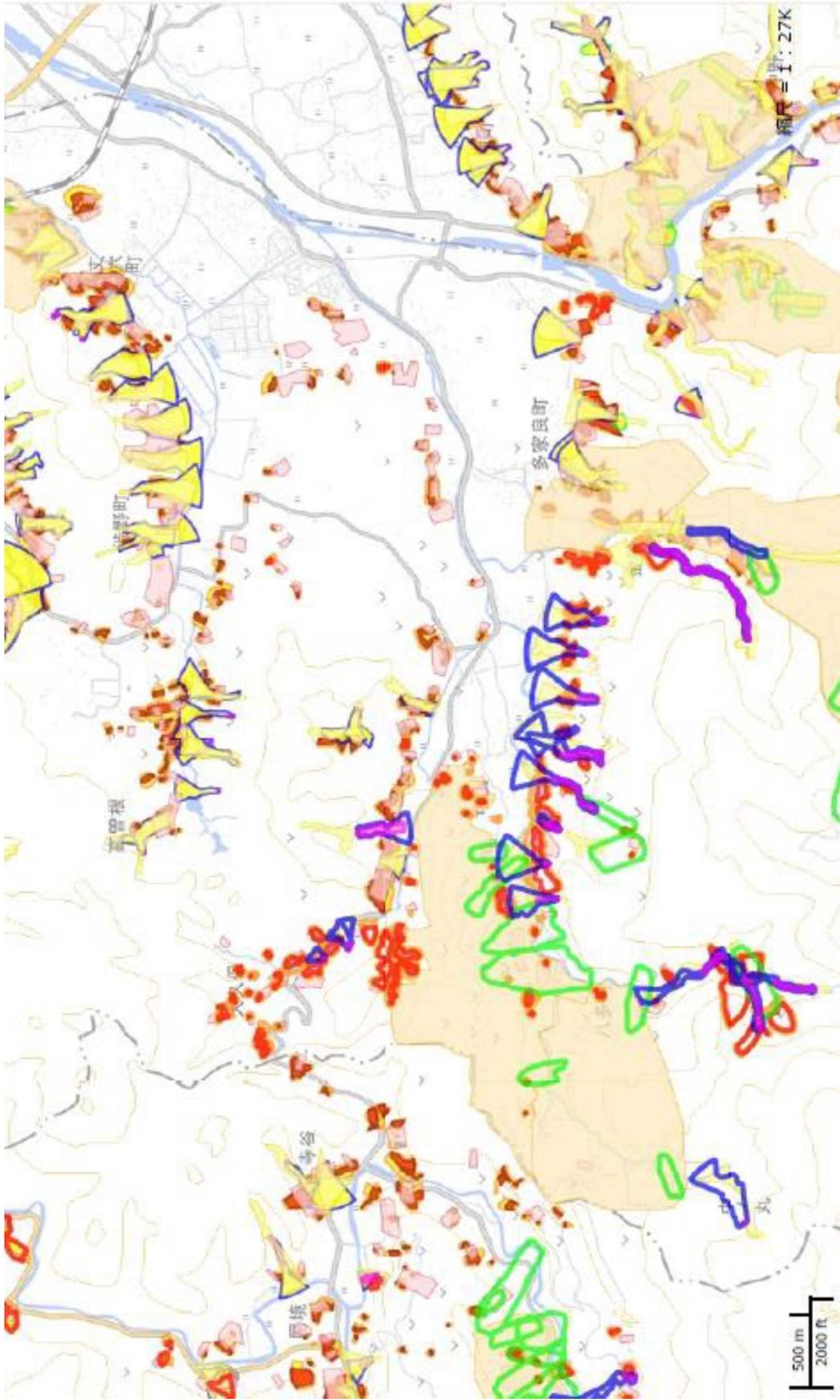
- ・ 建設候補地については、土砂災害警戒区域には指定されていない。
- ・ 進入路については、急傾斜地に係る土砂災害警戒区域等に指定されている。今後の施設整備の実施計画等の中で、安全性を確保するための方針を熟慮したい。

(3) 委員意見・・・なし

以 上

【参考資料2】

土砂災害警戒区域等マップ（全体図）



出典：徳島県土砂災害警戒マップ（徳島県土整備部砂防防災課）

土砂災害警戒区域等マップ（最有力候補地周辺詳細衛星写真）



出典：徳島県土砂災害警戒マップ（徳島県土整備部砂防防災課）

- 黄色：土砂災害警戒区域（急傾斜、土石流）
- 赤色：土砂災害特別警戒区域（急傾斜地、土石流）
- ピンク色：急傾斜地崩壊危険箇所
- うす黄色：土石流災害警戒区域（土石流危険渓流）

一般廃棄物中間処理施設の広域整備に関する課題について

1 用地に関する課題

課題1 現候補地の用地が購入できていないこと

課題・問題点

- 1 最大地権者である民間事業者からは、用地売買について一定の理解を得ているが、契約は締結していない。
- 2 それ以外の地権者とは、具体的な交渉は行っていない。
- 3 最大地権者である民間事業者は、本市の整備計画に合わせて民間施設を移転できるよう、奥の山林の開発に着手している。

必要な対応等

- 1 現候補地で進める場合、用地売買契約は、税控除が適用されるよう、都市計画決定手続き開始後に締結する。
- 2 地元住民に対しては、合意まで用地買収しないと説明しており、合意に向けた話し合いを優先する必要がある。

課題2 現候補地の林地開発

課題・問題点

- 1 現候補地は、地権者により森林法に基づく林地開発が行われているが、施設整備に当たっては、開発を終了させる必要がある。

必要な対応等

- 1 林地開発を終了させるため森林を新たに造成した場合、造成した森林の伐採や移設などはしないよう徳島県からいわれていることから、現候補地で進める場合には、新施設の造成計画に合わせて森林を造成することなど林地開発の終了に向けて、地権者及び県と協議を進める必要がある。

2 整備計画に関する課題

課題3 施設の給水

課題・問題点

- 1 施設で使用する水を、上水道とするか地下水とするか実施計画で定めることとしており、現時点で決まっていない。
- 2 地下水が利用可能かどうか調査が実施できていない。
- 3 地下水が利用できず、上水道とする場合、水道管を長距離にわたって敷設する必要があり億単位の費用がかかる。また水源からの距離が長く災害時の断水リスクが高い。

必要な対応等

- 1 現候補地で進める場合、作業を一時中断している実施計画の検討段階で実施可能な方法を決定する。
- 2 地下水が利用可能と判断される場合には、地下水を優先するが、地下水が利用できず、上水道とする場合、上下水道局と費用負担等について協議を行う必要がある。
- 3 飯谷町の地元住民からは、上水道や簡易水道の整備の要望があり、地元と協議しながら、周囲の水道整備を検討する必要がある。

課題4 施設の排水

課題・問題点

- 1 現候補地は下水が整備されていない地域であることから、プラント排水は、施設内で消費する（クローズドシステム）こととしている。
- 2 施設で発生する生活排水は、浄化槽を経て勝浦川に排水する方針としているが、小松島市の水源上流に位置していることから、水源を利用する住民に不安を与えている。

必要な対応等

- 1 現候補地で進める場合には、住民には排水の安全性について引き続き丁寧に説明していく必要がある。

課題5 焼却灰の再資源化

課題・問題点

- 1 リサイクル率の目標を達成するため、焼却灰の再資源化を検討しているが、最終処分場に埋め立てる場合と比較して、処理費用が年間2億円程度高額となる。
- 2 再資源化を選択した場合、焼却灰を徳島東部処分場に搬入しなくなるた

<p>め、事前に徳島県環境整備公社と協議が必要。</p> <p>3 再資源化をしない場合、本市の掲げるリサイクル率の目標を達成することが困難となる。</p>
<p>必要な対応等</p>
<p>1 リサイクル率の目標の達成のため、焼却灰の再資源化する方向で検討を進める。</p> <p>2 徳島県環境整備公社には、これまで方向性は伝えているものの、再資源化方針が具体化する前に、正式に協議する必要がある。</p>

課題6 送電設備の費用負担

<p>課題・問題点</p>
<p>1 熱回収施設で発電し、売電する計画であるが、売電用の送電線の敷設について、電力会社と費用がどの程度かかるか、また誰が負担するかについての協議ができていない。</p> <p>2 電力会社から、試験稼働の期間等を考慮し、施設稼働の1年前までに送電設備は完成しておく必要があるといわれている。なお、送電設備の工事は電力会社が実施する。</p>
<p>必要な対応等</p>
<p>1 電力会社とは、施設整備を現候補地で進める方針を定めた後、直ちに費用負担についての協議を開始する必要がある。</p>

3 進入路に関する課題

課題7 搬入出ルートの整備

<p>課題・問題点</p>
<p>1 現候補地の上流に橋を建設する現行案については、一部地権者の同意が得られず、収用も難しい。</p>
<p>必要な対応等</p>
<p>1 現行案については、地権者の同意が得られないことから断念する。</p> <p>2 現候補地で進める場合には、代替として、橋の位置を変更する案と県道212号線を拡幅する案の両方を比較検討し、方針を決めた上で、県と協議しながら進める必要がある。</p>

4 その他の課題

課題8 中継施設の設置

課題・問題点
<ol style="list-style-type: none">1 現候補地が市内中心部から離れていることから、収集車両1台ごとに搬入するか、大型の車両に積み替えて搬入するか検討し、積み替える場合には中継施設を整備する必要がある。2 中継施設には、積替設備を整備する必要がある、排水・臭気対策や地元対策が必要となる。3 収集車両1台ごとに搬入する場合、車両を増車しなければならず、収集費用が増大する。
必要な対応等
<ol style="list-style-type: none">1 新施設を整備方針決定後に、中継施設の検討を開始する。

課題9 車両基地の設置

課題・問題点
<ol style="list-style-type: none">1 現在東西環境事業所にある収集車両の基地をどこに整備するか決定する必要がある。2 車両基地では車両を洗浄する必要がある、その排水の処理や地元対策が必要となる。3 現候補地に車両基地を整備することは、敷地の確保及びプラント排水が増加することから困難。
必要な対応等
<ol style="list-style-type: none">1 東西の跡地利用、中継基地の設置等の対応を検討する際に車両基地についても方針を決定する必要がある。

課題10 東西環境事業所の撤去・跡地利用

課題・問題点
<ol style="list-style-type: none">1 東西環境事業所の撤去には、使える国の交付金もなく、費用が高額となることが想定されるが、いつ撤去するか検討が必要。2 撤去後の跡地利用についての計画が未策定。
必要な対応等
<ol style="list-style-type: none">1 新施設を整備方針決定後に、撤去及び跡地利用の検討を開始する。

課題11 民間が運営する場合の東西環境事業所の職員配置

課題・問題点

- 1 新施設整備の交付金の条件で、事業者選定時にPFI導入可能性調査が必須とされている。民間事業者が運営する場合には、現職員の配置について検討が必要とされている。

必要な対応等

- 1 事業者選定を検討する中で、運営方法についても直営か民営かを決定することとしていたことから、事業者選定時にどのような課題があるかを検討する必要がある。
- 2 民営とする場合には、東西環境事業所職員の対応を検討する必要がある。

課題12 (既存)民間リサイクルセンターの扱い

課題・問題点

- 1 徳島市は、プラスチックなどのリサイクルを民間事業者に委託している。新施設ではリサイクルセンターも整備する計画であり、民間にリサイクルを委託しなくなる。

必要な対応等

- 1 既存業者に一旦は説明しており、新たな施設にリサイクルセンターを作ることについての理解は得ている。

課題13 事業全体の費用が見込めていないこと

課題・問題点

- 1 基本計画では、熱回収施設、リサイクルセンターの建設工事、造成、搬入ルート整備の関連工事を合わせ、建設費として444.6億円を見込んでいるが、用地の取得や電力・水道の引込、周辺環境整備等の費用はこれまで計上していない。これらの「未計上の費用」について、相当の費用が掛かることが想定されるが、現時点で、見込めていない。

必要な対応等

- 1 事業を進める場合には、事業の進捗に合わせて個別に費用を積算した上で予算化する必要がある。

課題14 東西環境事業所の老朽化

課題・問題点

- 1 現在は、新施設の整備を見越して修繕は必要な程度で実施しているが、大規模な障害が発生した場合の費用が見積もれていない。(同程度の古さの石井町では運転できない事態も発生している。)
- 2 一般廃棄物の中間処理については、過去5年平均の維持費用が17.1億円程度(焼却費・人件費・委託費・修繕費含む)かかっている。
- 3 新施設の維持費は年間12.4億円、売電収入は4.4億円を見込んでおり、差し引き8億円の費用がかかると見込んでいる。

必要な対応等

- 1 早急な新施設の整備を目指す必要がある。
- 2 新施設の稼働時期について、施設維持部門や5市町に、事業の進捗状況を適宜報告する必要がある。

課題15 広域処理の将来

課題・問題点

- 1 広域でごみ処理施設を徳島市に施設整備することとしているが、地元住民からは、他市町のごみをもってくることに對しての不満があり、次は徳島市以外で整備することなどを求める意見がある。

必要な対応等

- 1 将来にわたって地元住民の負担が継続しないことを地元に対して示すため、新施設が老朽化し、次の計画を広域で行う場合には、徳島市以外での整備を5市町に求めることなどを検討する必要がある。

以上